

# SAM 導入のメリットと導入時の課題

ソフトウェア資産管理評価認定協会

理事 田中 寿一

2016年6月10日

# SAMの目的とメリット

# SAMの目的

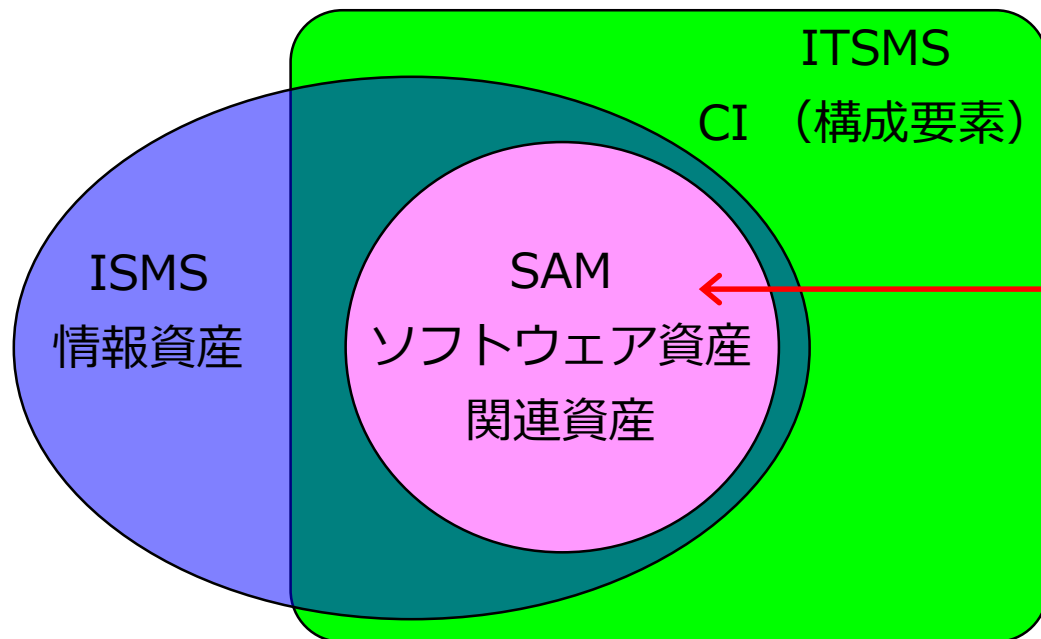
- SAMは、ソフトウェア及びソフトウェア関連資産をそのライフサイクルを通じて管理するしくみ
  
- SAMは、ITサービスマネジメント全体の有効な支援として実施する
  - **ビジネスリスク管理の促進**
    - ライセンスコンプライアンス
    - 情報セキュリティ
    - ITサービス中断・品質低下リスク
    - これらに起因する社会的信用力の失墜リスク
  - **コスト管理の促進**
    - 調達コスト・運用コストの最適化
  - **競争上の優位性**

など

(SAMユーザーズガイド「はじめに」より)

# SAMとISMS・ITSMSの関係と貢献

- SAM (ISO/IEC 10770) は、ISMS(ISO/IEC 27000) 、ITSMS(ISO/IEC 20000)と関連している
  - ISMS(ISO/IEC 27000) : ISO/IEC 19770-1 の要求事項を満たすことが望ましい
  - ITSMS(ISO/IEC 20000) : 整合をとり、支援するように意図されている
- SAM、ISMS、ITSMSでは、それぞれが資産を識別し、マネジメントシステムの基本情報としている



SAMの対象資産はISMS及びITSMSと共通であり、資産とライフサイクルを通じた網羅性において他のマネジメントシステムに貢献する

# SAM (ISO/IEC 19770-1) 管理対象

## ➤ 管理範囲の識別

- 組織と資産についてSAMの導入範囲を決定する
  - ソフトウェア：実行可能なソフトウェア、非実行可能なソフトウェア、開発ソフトウェア
  - 関連資産：ソフトウェアが稼働するプラットフォームや、ライセンスされる対象となる資産
- 範囲外の資産と組織についても識別可能にする（網羅性）
  - 管理対象外である（モレではない）ことを識別可能にする

## ➤ 管理プロセス・サービス

- 対象資産のライフサイクルを通じた変化を管理
  - 購入・導入・異動・廃棄
  - 正確性・網羅性、適時性、妥当性
- ITサービスプロセス
  - 問題管理・インシデント管理、リリース管理・展開管理

# SAMとISMS・ITSMSの関係と貢献

ITサービスとセキュリティに対して、網羅性・正確性・適時性・妥当性を持ったソフトウェア、ハードウェア情報を提供する

例：OSやソフトウェアのバージョンアップ

現状把握：ソフトウェアとハードウェアの状態を把握できている

- 対象資産の把握、影響の把握が可能となる
- 課題の把握・対応策の検討ができる
- 費用の把握ができ、コストの最適化を図ることができる

例：セキュリティの脆弱性を修復

現状把握：ソフトウェアとハードウェアの状態を把握できている

- 対象資産の把握、影響の把握が可能となる
- 課題の把握・影響の把握・対応策の検討ができる
- 費用の把握ができ、コストの最適化を図ることができる

# SAM導入時の課題

# SAM (ISO/IEC 19770-1) の要求事項

ソフトウェア資産管理基準 ver 4.1

管理目標		管理要件	管理項目	
1	方針	自組織に適したソフトウェア資産管理の方針・規程等が作成されていること	5	24
2	体制	管理体制・教育体制・監査体制が整備されていること	2	7
3	SAMのコンピテンシー	ソフトウェア資産管理のコンピテンシーを確立・維持するための仕組みがあること	2	6
4	保有	利用しているソフトウェアが使用許諾を受けていることが証明でき、所有ライセンスの種類及び数量が把握されていること	3	16
5	導入	ハードウェア・ソフトウェアの物理的・論理的な在庫管理（インベントリ管理）が行われていること	2	13
6	コストの効率化	ソフトウェア資産管理に関連するコストの最適化が図られていること	1	7
7	セキュリティ	ソフトウェア資産管理方針に関連するセキュリティ要求事項を含むソフトウェア資産管理の対策に関するセキュリティ要求事項が順守されていること	1	5
8	運用管理プロセス	SAMの運用管理機能の効果・効率的な実行のための各種プロセス及びインターフェースが導入されていること	3	11
9	ライフサイクルプロセス インターフェース	ソフトウェア資産管理の対象資産のライフサイクル管理を効果的・効率的に実行するためのプロセス及びインターフェースが導入されていること	8	16



# SAM構築時の課題

## ➤ 管理範囲の設定

### □管理範囲：組織と資産

原則：すべての資産と組織を対象にする

実際：予算とセキュリティ要件により対象外が発生することが多い

教育（K12）：教育委員会、学校予算、個人

教育（大学）：大学資産、国の予算、研究費、学生、非常勤教員

自治体：セキュリティ

企業：グループ企業、購買体制、設置場所、費用負担

- 原因：① 対象・対象外の判断においてリスクアセスメントが行われていない  
→ 管理対象にするリスクと管理対象外にするリスクについて評価されていない
- ② 対象外とした資産が識別できるようになっていない  
→ モレなのか対象外とした資産なのか判らない
- ③ 例外が発生したときの手続きが定められていない
- ④ 正確な現状把握ができていない

# SAM構築時の課題

- 網羅性・正確性、適時性、妥当性の維持と可用性の維持

原則：組織で承認されたソフトウェアをインストール

実際：業務上必要となったソフトウェアを随時現場でインストールしてしまう

※ライセンス情報と導入記録が行われない。使用終了後アンインストールされない

教育（K12）：授業改善、教材付随ソフトウェア

教育（大学）：教員、学生所有コンピュータへのインストール

自治体：比較的他組織にくらべコントロールは容易

企業：商談支援・競合調査のための試用版ソフトウェア  
オフィスツール

共通：ドライバ、ユーティリティ

※ライセンス情報と導入記録が行われない。使用終了後アンインストールされない

原因：① 標準ソフトウェア、部門管理ソフトウェアについての規程・手続きの不備

② 資産の識別と管理レベルの設定が不十分

③ 例外が発生したときの手続きが定められていない

※体制・役割・教育の実施と見直し

# SAM構築時の課題

## ➤ ソフトウェアの取得・利用

### 使用許諾条件の理解

- ・ 対象資産
- ・ 個人、不特定多数の利用
- ・ 地域
- ・ 期間

(ほか)

### コスト … 調達コスト、運用コスト

- ・ 短期的/長期的視点でのコスト計画
- ・ 検証コスト
- ・ 保守、展開コスト

**※ バランスよく、効率的・計画的にソフトウェアを調達・利用**

**※ 標準ソフトウェアの設定**

# SAMACの研修

## ➤ **CSC（公認ソフトウェア資産管理コンサルタント）研修**

SAMの構築、運用・改善に必要な知識とポイントを学習します  
演習を交えた2.5日の研修と理解度試験により資格認定されます

第20回 2016年 6月22日（水）～24日（金）

第21回 2016年 9月14日（水）～16日（金）

第22回 2016年 12月14日（水）～16日（金）

## ➤ **CLM（公認ライセンスマネージャー）研修**

ソフトウェアライセンスの正しい利用と適切な調達を推進するために必要な  
知識とポイントを学習します  
演習を交えた1日の研修と理解度試験により資格認定されます

2016年 9月 2日（金） 東京

2016年 11月16日（水） 東京

2017年 2月 9日（木） 大阪

SAMAC

一般社団法人 ソフトウェア資産管理評価認定協会